神戸新聞　（第３種郵便物認可）

「人とのつながり大切に」

母親亡くした福井さん講演

加西・善防中　被災地での交流経験語る

加西市立善防中学校（同市両月町）では、阪神・淡路大震災で母親を亡くした管理栄養士の福井友利さん（32）＝三田市＝が講演した。震災遺児を支援する「あしながの育英会・神戸レインボーハウス」（神戸市東灘区）に通った経験や東日本大震災での活動を回想し、全校生128人に「災害は当たり前の日常を一瞬にして奪っていく。その時に支えになるのは人しかいない。人とのつながりを大切にして」と語りかけた。（敏陰潤子）

震災遺児として歩んできた日々を語る福井友利さん＝善防中学校

同校の飯尾太一教諭が、育英会で支援活動をしていた縁で講師に招かれた。

福井さんは西宮市で暮らしていた4歳の時、母の幸美さん（当時31歳）を亡くした。父、姉の3人家族で育ったが、時がたつにつれて「お母さんに会いたいな。さみしいなと思うようになった」と語り、「走り回って遊んでくれたり、話を聞いてくれたりする人がいるレインボーハウスは、特別な場所になった」と振り返った。

育英会の活動に参加し、中国やハイチの大地震、東日本大震災の被災地を訪れて震災遺児たちと交流した。涙を流して話せない子どもたちを前に「いろんな人に助けてもらったように、今度は私が何かしたい。独りじゃないと知ってほしかった」と寄り添い続けた。今も東北の子どもたちと交流があり、福井さんと同じ管理栄養士を目指す大学生もいるという。

講演を聞いた2年生の前田美里さんは「人の痛みを思いやれる人になりたい」と話していた。

阪神・淡路大震災28年

阪神・淡路大震災の発生から28年となった17日、北播磨地域でも「あの日」に思いを寄せた。震災を知らない世代に災害の記憶を語り継ぎ、防災への意識を高めた。